

27年11月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年 11月1日～ 27年11月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は11社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/11月	12月	28/1月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 15.0	△ 10.0	△ 20.0
	マツ	△ 35.0	△ 35.0	△ 35.0
	広葉樹	△ 31.8	△ 36.4	△ 36.4
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 11.1	0.0	0.0
	マツ	△ 22.2	△ 22.2	△ 22.2
	広葉樹	△ 25.0	△ 15.0	△ 20.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 15.0	△ 20.0	△ 25.0
	マツ	△ 30.0	△ 30.0	△ 30.0
	広葉樹	△ 50.0	△ 45.5	△ 45.5

・チップ用国産原木の入荷は3ヵ月連続して減少。

・チップ用国産原木の消費はスギ・ヒノキが11月の減少から12月、28年1月は横ばい。マツ及び広葉樹は3ヵ月連続して減少。

・チップ用国産原木の在庫は3ヵ月連続して減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/11月	12月	28/1月
スギ・ヒノキ	10.0	5.0	5.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	4.5	4.5	4.5

・チップ用原木の価格はスギ・ヒノキ及び広葉樹がやや強保合で推移。マツ類は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・スギはシステム材（森林管理署）の入荷で一時的に増加が見込まれる（東北）。
- ・材の発生が少ない。消費は順調だが仕入低迷で、要望に対応出来ていない。入荷少なく、入荷分は全て生産しており、在庫はない状況（中部）。
- ・仕入、消費、在庫共に変動なし（中国）。
- ・雨の影響はあるが入荷量はやや増加。バイオマス、製紙、ボードメーカーともチップの必要性があり、スギ、ヒノキの消費はやや増加。在庫はやや減少傾向（四国）。
- ・全樹種ともしばらくは順調に入荷すると予想。11月は製紙工場、バイオマス発電ともに定期点検のため出荷が減少、よって丸太消費も減少。在庫は横ばい（九州）。
- ・仕入れは低調に推移。仕入状況に応じて消費（九州）。

(原木価格)

- ・スギは発電用木質バイオマス燃料の不足でやや上昇（東北）。
- ・動きなし（中部）。
- ・変動なし（中国）。
- ・変動なし（中国）。
- ・これまで大分上がってきたので、しばらくはこの価格で維持しそう。そろそろ天井か（九州）。
- ・現状維持（九州）。

27年11月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/11月	12月	28/1月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 16.7	△ 5.6	△ 11.1
	マツ類	△ 22.2	△ 22.2	△ 22.2
	広葉樹	△ 35.0	△ 25.0	△ 30.0
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 12.5	0.0	△ 12.5
	マツ類	△ 11.1	△ 11.1	△ 11.1
	広葉樹	△ 20.0	△ 10.0	△ 15.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 42.9	△ 35.7	△ 42.9
	マツ類	△ 28.6	△ 28.6	△ 28.6
	広葉樹	△ 37.5	△ 31.3	△ 37.5

- ・木材チップの生産は3ヵ月連続して減少。
- ・木材チップの出荷は、12月のスギ・ヒノキの横ばいを除き、全て3ヵ月連続して減少。
- ・木材チップの在庫は3ヵ月連続して減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	27/11月	12月	28/1月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	5.0	0.0	0.0

- ・木材チップの出荷価格は、11月の広葉樹のやや強保合の他は、3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・広葉樹は原材料の入荷減少により、出荷量を減らしている（東北）。
- ・リサイクルチップは横ばい。製紙用の原木チップは入荷がないため減少状態で横ばい。生産したものが出荷量（中部）。
- ・変動なし（中国）。
- ・原木入荷は増の見通しで、生産はやや増加。出荷もやや増の見通し。在庫は燃料用やや減少、製紙・ボード用減少（四国）。
- ・今月は出荷先の減産の影響がある。在庫はない（九州）。
- ・原木入荷に応じた生産、計画数量に伴う出荷、在庫は少し（九州）。

(木材チップ価格)

- ・動きなし（中部）。
- ・変動なし（中国）。
- ・変動なし（四国）。
- ・これまで針葉樹、広葉樹共に見直しがあった（九州）。
- ・現状維持（九州）。